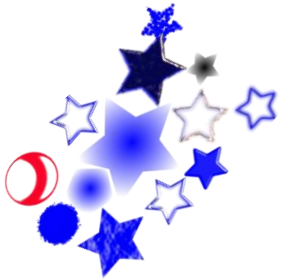
会計の基本がわかる！その①
かいけい　きほん

貸借対照表
たいしゃく　たいしょう　ひょう

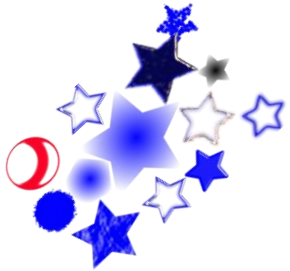
講師 有馬秀次



もくじ

① 貸借対照表って何？
たいしゃく　たいしょう　ひょう　なに

② 貸借対照表の見方！
たいしゃく　たいしょう　ひょう　みかた



① 貸借対照表ってなに？

たいしゃく　たいしょう　ひょう

運用
うん　よう

資産		負債・資本	
現金	100	借入金	600
建物	900	---	--
---	--	---	--
---	--	資本金	300

調達
ちょう　たつ

貸借対照表とは、会社がどのような形で資金を集め、どのような資産を購入したかを左右に対照する形で記載した一覧表のことです。

別名
べつめい

バランスシート(B/S)
ビー・エス

資産
しさん
＝
資本
しほん

左側に「資産の部」を、右側に「資本の部」を表示させるところから、英語で「バランスシート(ビー・エス)」といいます。決算期日における企業の財政状態を表します。

貸借対照表(B/S)

たいしゃく　たいしょう　ひょう　ビーエス

会社の所有する財産(資産)の

かいしゃ　しょゆう　ざいさん　しさん

財務三表

ざいむ　さんぴょう

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書)

そんえき　けいさんしょ　たいしゃくたいしょうひょう　けいさんしょ

一覧表

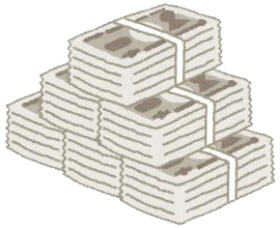
現金	100
建物	900
---	--
---	--
---	--

簡単にいうと、決算時の財産の一覧表です。決算書類(財務三表)のうちの一つです。

会社の資産ってなに？

かいしゃ　しさん

商売
しょうばい

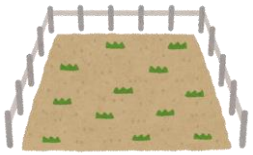


現金
げんきん

受取手形
うけとりてがた

商品
しょうひん

建物
たてもの



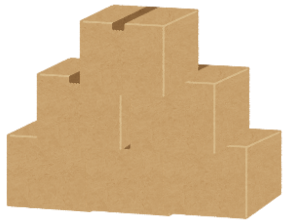
土地
とち

資産とは、事業を営むのに必要な財産のことです。現金、受取手形、商品、建物、土地、などのことです。各資産の合計を総資産といいます。

総資産は左側！

そうしさん　　ひだりがわ

現金
げんきん



商品
しょうひん

建物
たてもの

運用
うん　よう

総資産		総資本	
現金	100	借入金	600
建物	900	---	--
---	--	---	--
---	--	資本金	300

資産は、資金の運用状態を表します。左側の欄に記載します。

総資本は右側！
そうしほん　　みぎがわ

総資産		総資本	
現金	100	借入金	600
建物	900	---	--
---	--	---	--
---	--	資本金	300

調達
ちょうたつ

- 買掛金（かいかけきん）
- 支払手形（しはらいてがた）
- 借入金（かりいれきん）
- 社債（しゃさい）
- 資本金（しほんきん）

返済が必要なお金

返済不要のお金

資本は、右側の欄に記載します。資本とは、事業を営むのに必要な元手のことです。各資本の合計を総資本といいます。

事業資金をどう調達するか？
じぎょう　しきん　ちょうたつ

商売の元手
しょうばい　もとで

資本
しほん

① 他人から借りる
たにん　か

他人資本 ← 借入金など
たにん　しほん　かりいれきん

社　債
(発行者)

② 自己資金を出資する
じこ　しきん　しゅっし

自己資本 ← 自己資金
じこ　しほん　じこ　しきん

株　式
(発行者)

資本(元手)の調達方法は、外部から調達する「他人資本」と、内部でまかなう「自己資本」にわけられます。

他人資本の正体
たにん　しほん　しょうたい

返済が必要なお金

買掛金
かいかけきん

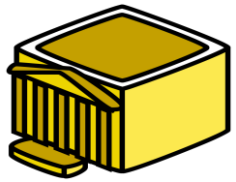
支払手形
しはらいてがた

借入金
かりいれきん

社債
しゃさい

取引先
とりひきさき

金融機関
きんゆうきかん



負債
ふさい

他人資本とは、買掛金、支払手形、借入金、社債などのことです。返済が必要なお金のことです。通常、他人資本のことを「負債」と呼んでいます。

自己資本の正体
じこ　しほん　しょうたい

返済不要のお金

資本金
しほんきん

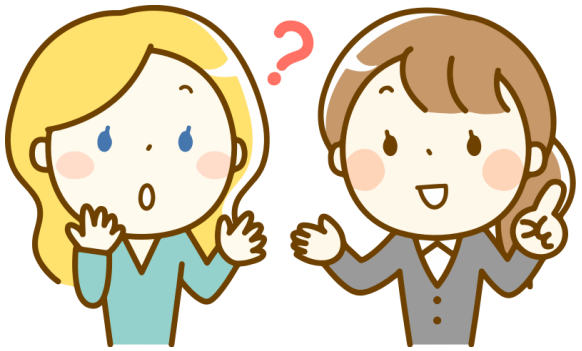
株主が出資した資金
かぶぬし　しゅっし　しきん

剰余金
じょうよきん

社内に蓄積された利益
しゃない　ちくせき　りえき

純資産
じゅんしさん

一方、自己資本とは、自前で調達した資金のことです。返済不要の資金です。通常、自己資本のことを純資産と呼んでいます。



1年基準（ワン・イヤー・ルール）による
いちねんきじゅん

勘定科目の区分について
かんじょう　かもく　くぶん

流動（短期）
りゅうどう　たんき

固定（長期）
こてい　ちょうき

貸借対照表上の資産や負債を短期と長期に分類する会計基準のことをワン・イヤー・ルール（1年基準）といいます。現金化に必要な期間が1年以下のものを、「流動資産（負債）」（短期もの）、1年を超えるものを「固定資産（負債）」（長期もの）と呼んでいます。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
商品		固定負債	320
		長期借入金	
固定資産	550	社債	
建物		純資産	480
機械		資本金	
土地		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

流動資産
りゅうどう　しさん

1年以内に現金化できる資産
いちねん　いない　げんきんか　しさん

現金預金、受取手形、売掛金、商品など
げんきん　よきん　うけとり　てがた　うりかけきん　しょうひん

1年以内に現金化できる資産を「流動資産」といいます。流動資産とは、現金預金、受取手形、売掛金、商品などのことです。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
商品		固定負債	320
		長期借入金	
固定資産	550	社債	
建物		純資産	480
機械		資本金	
土地		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

固定資産
こてい　しさん

1年を超えて所有する資産
いちねん　こ　しょゆう　しさん

（現金化するのに1年を超えるもの）
げんきんか　いちねん　こ

建物、機械装置、車両、土地
たてもの　きかい　そうち　しゃりょう　とち

1年を超えて所有する資産を「固定資産」といいます。固定資産とは、建物、機械装置、車両、土地などのことです。つまり、現金化するのに時間がかかる資産のことです。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
商品		固定負債	320
		長期借入金	
固定資産	550	社債	
建物		純資産	480
機械		資本金	
土地		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

流動負債
りゅうどう　ふさい

1年以内に支払期限が到来する債務
いちねん　いない　しはらい　きげん　とうらい　さいむ

支払手形、買掛金、短期借入金
しはらい　てがた　かいかけきん　たんき　かりいれきん

1年以内に支払期限が到来する負債を「流動負債」といいます。
流動負債とは、支払手形、買掛金、短期借入金などのことです。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
商品		固定負債	320
		長期借入金	
固定資産	550	社債	
建物		純資産	480
機械		資本金	
土地		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

固定負債
こてい　ふさい

1年以降に支払期限が到来する債務
いちねん　いこう　しはらい　きげん　とうらい　さいむ

長期借入金、社債
ちょうき　かりいれきん　しゃさい

支払期限が、1年を超える負債を「固定負債」といいます。固定負債とは、長期借入金、社債などのことです。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
商品		固定負債	320
		長期借入金	
固定資産	550	社債	
建物		純資産	480
機械		資本金	
土地		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

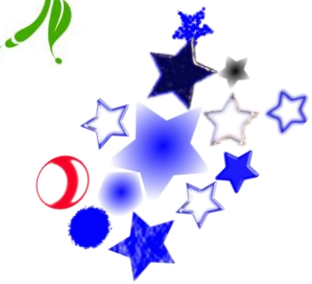
純資産
じゅん　しさん

資本金とは、株主からの出資金
しほんきん　かぶぬし　しゅっしきん

利益剰余金とは、処分済み利益
りえきじょうよきん　しょぶんずみ　りえき

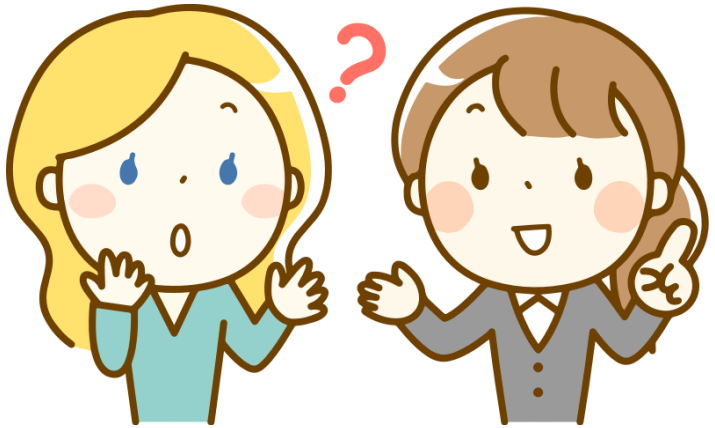
資本金、利益剰余金
しほんきん　りえき　じょうよきん

純資産とは、資本金や利益剰余金のことです。資本金とは、株主からの出資金のことです。利益剰余金とは、社内に蓄積された処分済み利益のことです。



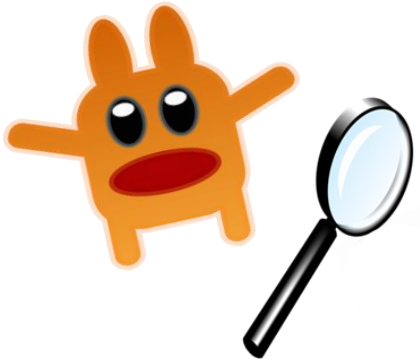
貸借対照表の常識

たいしゃく　たいしょう　ひょう　じょうしき

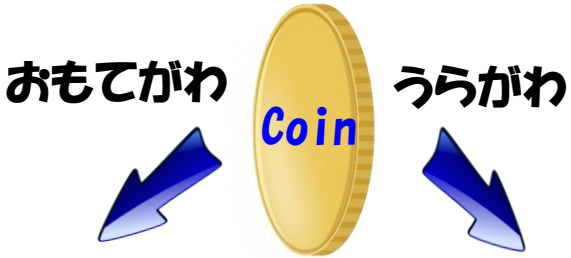


貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
有価証券		固定負債	320
商品		長期借入金	
固定資産	550	社債	
土地		純資産	480
建物		資本金	
機械		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950



取引（とりひき）（売買行為）（ばいばいこうい）



① 総資産＝総資本（そうしさん　そうしほん）

総資産と総資本は、必ず一致します。総資産と総資本は、会社の取引（売買行為）を異なる視点で捉えたものだからです。元手の運用状態を示すのが総資産、元手の調達方法を示すのが総資本です。たとえば、総資産が950億円であれば、総資本は、950億円と等しくなります。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
有価証券		固定負債	320
商品		長期借入金	
固定資産	550	社債	
土地		純資産	480
建物		資本金	
機械		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950

うらがわ

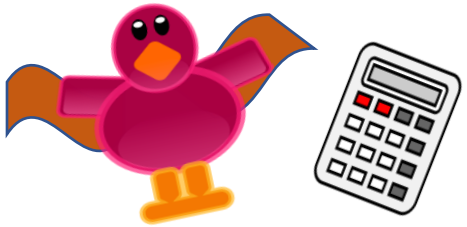
借金 の証文！
しゃっきん　しょうもん
(出資金)
しゅっし　きん

② 総資本≠お金
そう　しほん　かね

総資本の勘定科目（買掛金、借入金、資本金）には、「～金」という文字が含まれています。しかし、これらの勘定科目にお金があるわけではありません。会社の財産は、総資産だけです。総資本に財産価値はありません。

貸借対照表

資産		負債・資本	
流動資産	400	流動負債	150
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		短期借入金	
有価証券		固定負債	320
商品		長期借入金	
固定資産	550	社債	
土地		純資産	480
建物		資本金	
機械		利益剰余金	
総資産	950	総資本	950



③ 純資産＝総資本－負債
じゅんしさん　そうしほん　ふさい

純資産＝950－470

（自己資本）　（総資本）　（他人資本）
じこ しほん　そうしほん　たにんしほん

＝480

自己資本のことを純資産、他人資本のことを負債と呼びます。総資本から負債を差し引いたものが純資産です。「純資産＝総資産－負債」と書くことも可能です。総資産と総資本の金額は、つねに等しいからです。

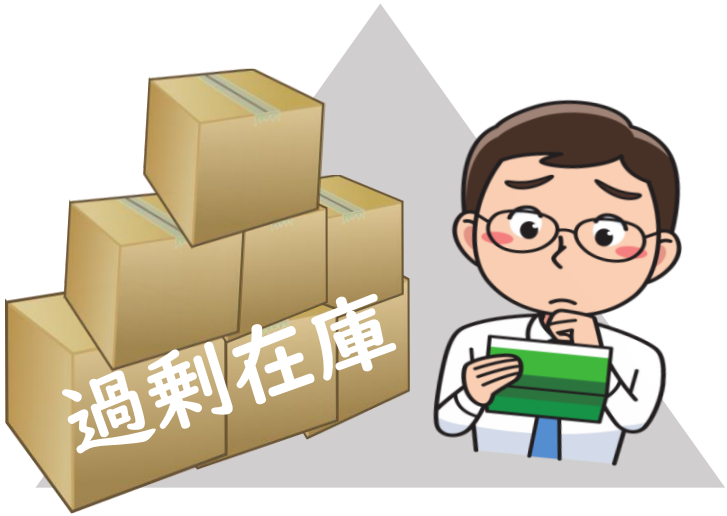
② 貸借対照表の見方！

たいしゃく　たいしょう　ひょう　みかた

バランスを捉える！

とら

資金繰りに失敗！
しきん　ぐ　しっぱい



会社（企業）は、取引先や債務者にお金の支払いができなくなったときに倒産します。

貸借対照表

資産	資本

バランスを考える

安全性がわかる！

あん　ぜん　せい

倒産
とうさん

資金繰りにおける問題は、「資産と負債」、「負債と純資産」のバランスに表れます。バランスをみれば、会社の安全性がわかります。

ポイント①

短期の資金繰り
たんき　しきん　ぐ

会社の支払能力を見る指標

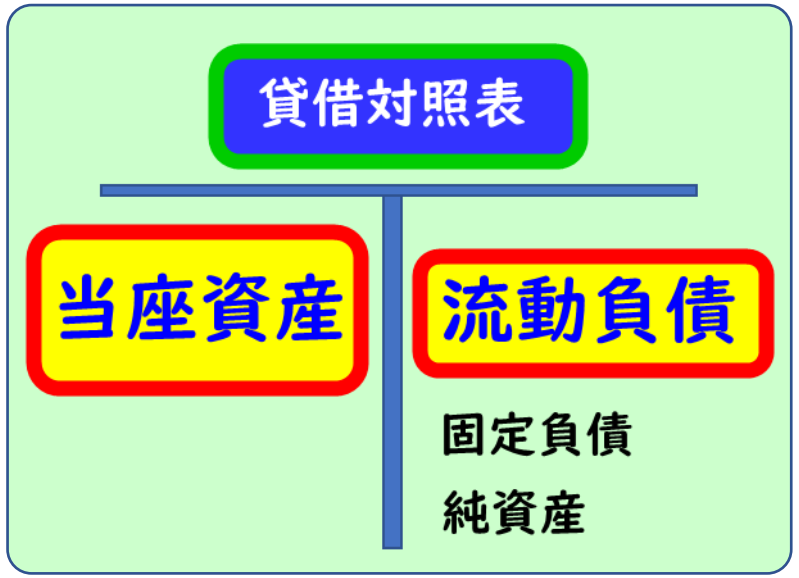
当座資産 < 流動負債
とうざ　しさん　りゅうどう　ふさい

資金不足

7億円　　10億円　　＝ −3億円

① 流動負債は、1年以内に支払期限をむかえる債務です。当座資産は、入金の見込みがある資産です。流動負債（10億円）が当座資産（7億円）より多い場合、資金不足（3億円）が発生します。

安全な資金繰り
あんぜん　しきん　ぐ

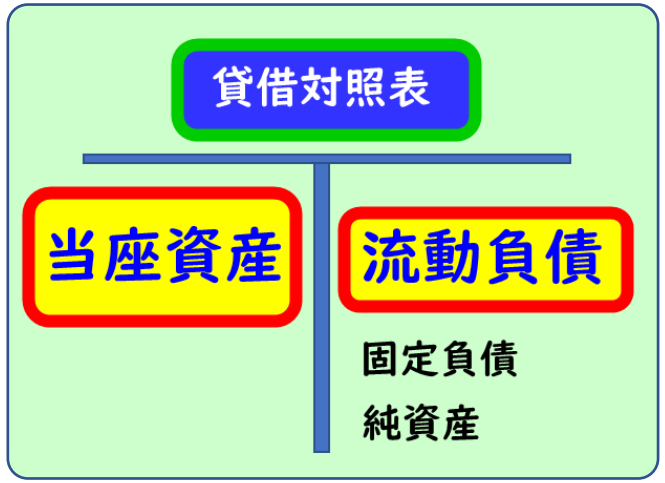


当座資産 ＞ 流動負債
とうざ　しさん　　りゅうどう　ふさい

（入金見込み）　　（支払見込み）
にゅうきん　みこ　　しはらい　みこ

ならば、
支払能力は高い！
しはらい　のうりょく

逆に、当座資産（入金見込み）が流動負債（支払見込み）より多ければ、資金繰りは安全な水準にあるといえます。



短期の支払能力を見る指標
たんき しはらい のうりょく み しひょう

$$\text{当座比率}(\%) = \frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$
とうざ ひりつ　とうざ しさん　りゅうどう ふさい

当座比率＞100％，ならば 安全
とうざ ひりつ　あんぜん

当座資産を流動負債で割った割合のことを当座比率といいます。当座比率が100％を超えていれば、短期の「資金繰り」は「安全」と判断します。

ポイント②

長期の支払能力
ちょうき　しはらい　のうりょく

固定資産
こてい　しさん
20 億円

＝

固定負債 10 億円
こてい　ふさい

自己資本 10 億円
じこ　しほん

② 固定資産が長期調達資金（固定負債と自己資本を合わせたもの）でカバーされていれば、資金繰りに問題はありません。

ポイント②

長期の支払能力
ちょうき　しはらい　のうりょく

固定資産
こてい　しさん

20 億円

＝

流動負債 5 億円
りゅうどう　ふさい

固定負債 5 億円
こてい　ふさい

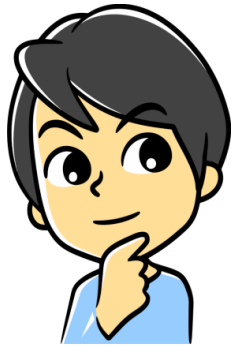
自己資本 10 億円
じこ　しほん

毎年、借換に忙しい！
かりかえ

しかし、その一部が流動負債でカバーされていると、財務担当者は、日夜、借換に奔走することになります。

会社の安全性を見る指標
かいしゃ　あんぜんせい　み　しひょう

長期資金繰りの安全性！



$$\text{固定長期適合率}(\%) = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}+\text{固定負債}} \times 100$$

こてい　ちょうき　てきごう　りつ

こてい　しさん

じこ　しほん　こてい　ふさい

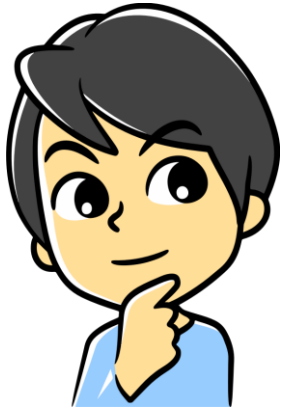
固定資産を、長期調達資金（固定負債と自己資本を合わせたもの）で割った割合のことを固定長期適合率とよびます。固定資産を長期調達資金でどの程度カバーしているかを示す指標です。

$$\text{固定長期適合率(\%)} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}+\text{固定負債}} \times 100$$

こてい　ちょうき てきごう　りつ

こてい　しさん

じこ　しほん　こてい　ふさい



固定長期適合率＜100%,ならば 健全

こてい　ちょうき　てきごうりつ　けんぜん

「80%」ぐらいなら、余裕かな！

よゆう

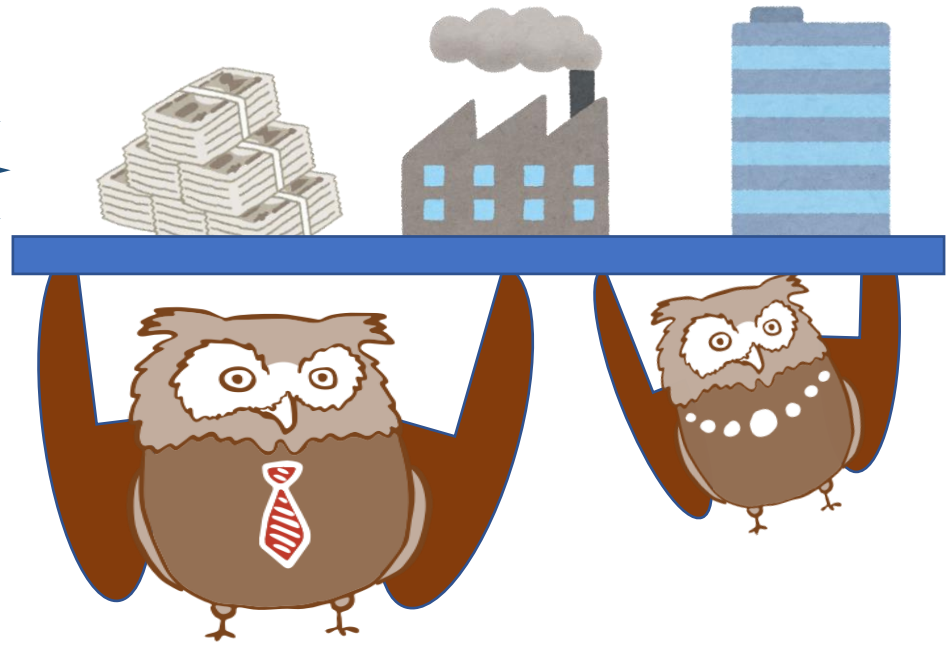
固定長期適合率は、100%未満を健全の目安とします。100%超になると、固定資産の一部を流動負債(短期借入）でカバーしていることになるからです。一般に、「80%」ぐらいなら、長期の資金繰りには余裕があるといえます。

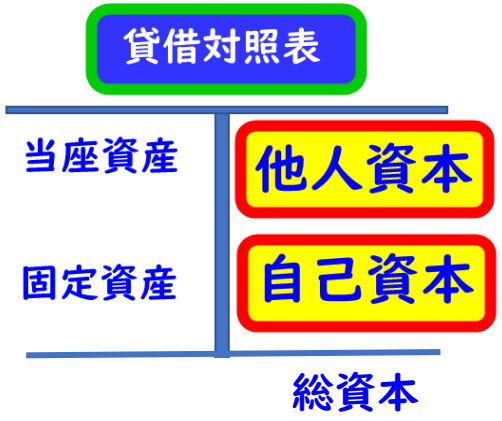
ポイント③ 会社経営の安全性を考える！

かいしゃけいえい　あんぜんせい　かんが

借金が多いと
しゃっきん　おお
経営不安定
けいえい　ふあんてい

他人資本
たにん　しほん



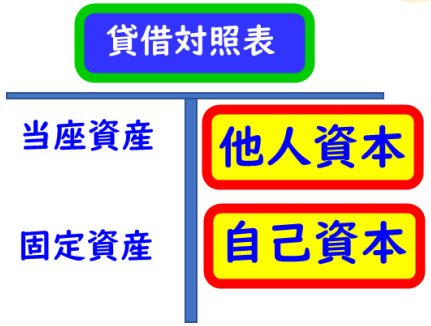


自己資本
じこ　しほん

③ 総資本のうちで他人資本（負債）の占める割合が大きくなると、会社経営は不安定になります。部外者が経営に口出しする場面が増えるためです。

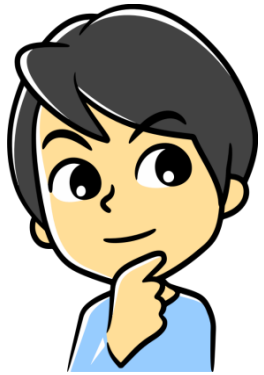
会社経営の安全性を見る指標

かいしゃけいえい　あんぜんせい　み　しひょう



$$\text{自己資本比率}(\%) = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

じこしほんひりつ　じこしほん　そうしほん



自己資本比率＞40%，ならば 健全

じこしほんひりつ　けんぜん

自己資本を総資本で割ったものを「自己資本比率」といいます。この比率は高いほどよく、倒産しにくい会社であると言えます。目安としては、40%を超えていれば、健全と判断します。

「安全性」がわかる 3指標

① 当座比率

当座資産÷流動負債 ＞100%

② 固定長期適合率

固定資産÷（自己資本＋固定負債）＜100%

③ 自己資本比率

自己資本÷総資本 ＞ 40%

まとめると、①当座比率は、100%超、②固定長期適合率は100%未満、③自己資本比率は、40%超が安全性の目安となります。

まとめ

① 貸借対照表は、資金の調達と運用状態を表わす
たいしゃく　たいしょう　ひょう　しきん　ちょうたつ　うんよう　じょうたい　あら

② 流動負債と資産のバランスから経営の安全性がわかる
りゅうどう　ふさい　しさん　けいえい　あんぜん　せい

① 貸借対照表は、資金の調達と運用状態を表わします。
② 流動負債と資産のバランスから経営の安全性がわかります。

では、また次回

制作 金融大学